

[特集]

困難を抱える人々に 友人として寄り添う

その基盤にはアントレプレナーシップがある

Entrepreneurship

イギリスの社会的企業
「ブロムリ・バイ・ボウ・センター」に学ぶ
地域住民が自分の人生を拓く
コミュニティ・センターの運営法



ブロムリ・バイ・ボウ・センターは、ロンドンのイーストエンド地区で住民たちが自らの力で立ち上げ、運営している複合的なコミュニティ拠点だ。同センターは、1997年にイギリスのシンクタンクDEMOSが、社会政策における社会起業家の必要性を初めてまとめた書籍「The rise of social entrepreneur（社会起業家の興り）」で、社会起業家の象徴的な事例の一つとして取り上げ、当時のブレア政権に大きな影響を与えたことで世界的に有名になった。

1984年、貧困地域であったブロムリ・バイ・ボウ地区の教会に赴任したアンドリュー・モーソンさんが始めたコミュニティ活動は、1993年に地区で起きた悲劇をきっかけに、地域住民の健康と生活を総合的に支えるヘルスセンターの設立へと発展した。

それから約20年が経ち、同センターは年間予算450万ポンド（約8億円）、150人のスタッフが働く場へと成長。ここで確立された考え方は近隣の街にも広がり、さらにロンドン・オリンピック後のイーストエンド地域の再開発にも大きな影響を与えるほどになっている。

このセンターを立ち上げたモーソンさんは、社会起業家として世界的に知られるようになった。ただし、彼だけが起業家なのではない。同センターの現在の運営責任者であるロブ・トリップさんは、「このセンターの最大の魅力がアントレプレナーシップであることは、20年以上変わっていません。ここにはたくさんの方の起業家がいることが魅力なのです」と語っている。コミュニティ拠点と起業家の間には、どのような関係があるのだろうか？ また、地域づくりにおいて、起業家にはどのような役割があるのだろうか？

上：センターの入り口の様子 中：中庭からヘルスセンターをみる 下：創業者アンドリュー・モーソンさん